

歴史・文化サイトカード

通しNo.		1-B-9		更新日	2025/2/5
サイト名		かんとのみずうみ 旧神門水海名残の汽水湖～神西湖 じんざいこ			
基本情報	区分	☐ 有形 ☐ 無形 ☒ その他			
	所在地	出雲市湖陵町差海			
	指定別				
	種別				
	指定／登録年月日				
	管理団体／モニタリング				
	周辺施設／アクセス	☐ トイレ ☐ 売店 ☐ 飲食店 ☐ 駐車場(台)			
	留意点				
サイトの解説	歴史・文化	神西湖は『出雲国風土記』にある神門水海(かんとのみずうみ)の一部が残ったものである。『出雲国風土記』には、当時の神門水海にナヨシ(ボラ)、チニ(チヌ)、スズキ、フナ、カキがある。と伝えている。今の神西湖で2月から6月に行われている杣網(ますあみ)という定置網を使った漁では、セイゴ(スズキの幼魚)、ハゼ、ボラ、ウナギ、モロゲエビ、川エビなどが獲れている。夏から秋にかけては、海面水位の上昇によって湖内の海水比率が高まるため、差海川からスズキ、クロダイ、コノシロ、ヒラメなどの海水魚が入って来て、杣網にかかる。汽水湖特有の産物シジミも獲れており、大粒のヤマトシジミが有名で、シジミが全漁獲量の75%を占めている。 神西湖の美しい風景を選んだ『神西湖九景』という江戸時代の京都の絵師・羽倉可亭によって描かれた風景画が残されている。			
	地形・地質、生物・生態等	神西湖の周囲は約5キロ、水深は約1.5メートルの汽水湖である。神西湖はかつて出雲平野西部に広がっていた神門水海の名残をとどめている。この一帯は、江戸期になるとかつての三角州や湿地が埋め立てられ、また寛永年間(1635－1636年)に神戸川を直接日本海へ注ぐための川違えが行われた結果、洪水が発生するようになった。そのため、北側の古砂丘を開削してできたのが人工河川の差海川(さしうみがわ)である。この開削は、出雲平野西部の開発に伴う灌漑用水路としてつくられた来原岩樋(くりはらいわひ)や高瀬川の開削で有名な大梶七兵衛(おおかじしちべえ)によるものであった。湖の東に分布する九景や鳥目の丘陵地は、神門水海のころの島であり、入り組んだ湖岸線をなしていたとみられる。差海川には湖の塩分調整用の堰が河口に設けられている。 また、神西湖と周辺の流入河川や用水路には、10種類をこえる水草が生育しており、中にはリュウノヒゲモ、イバラモといった絶滅危惧種もみられる。			
写真・図等					
参考文献					

神西湖北側の9号線付近

神西湖南側からの景色、遠方に北山